



マイコプラズマ肺炎

🔍 病気の説明 (どんな病気?)

肺炎マイコプラズマという細菌が原因の呼吸器感染症です。秋冬に増加する傾向がありますが、幼児、学童、青年期を中心に全ての年齢層で1年を通して報告されます。発熱、倦怠感、頭痛などの症状が出た後、3~5日で痰を伴わない咳が始まり、徐々に強く痰を伴う咳となります。この咳は、熱が下がった後も3~4週間続くことがあります。一部の人では肺炎など重症化することもあります。

🔍 予防 (感染はどう防ぐ?)

飛沫感染(咳、くしゃみなど)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、口や鼻などの粘膜を触ることによる)ですが、患者との長時間の濃厚な接触が感染を広げるとされています。

潜伏期間は2~3週間と長いです。

予防には、普段からの手洗いが大切です。感染した場合は、家族間でもタオルなどの共有は避けましょう。患者の飛沫から感染しますので、咳のある時にはマスクなどの咳エチケットも重要です。



🔍 治療 (感染したときは?)

抗菌薬で治療します。

軽症で済む人が多いですが、重症化した場合には入院治療を行います。

(※ 成人で、肺炎を伴わない気管支炎の場合、抗菌薬による治療を行わないことが推奨されています)

🔍 登園・登校の基準

症状が改善し、全身状態の良い者は登園・登校が可能であるとされています。

🔍 詳しく知りたい方は [マイコプラズマ肺炎とは \(niid.go.jp\)](https://www.niid.go.jp)

🔍 横浜市の流行状況 [横浜市感染症情報センター 横浜市 \(yokohama.lg.jp\)](https://www.yokohama.lg.jp)

